

## 平成2年国勢調査結果の概要

### 1. 人 口

— 三重県の人口は1,792,514人 —

平成2年10月1日現在の三重県の人口は1,792,514人で、男女別にみると、男 869,515人、女 922,999人、市部郡部別にみると、市部 1,210,901人、郡部 581,613人であった。

### 2. 人口密度

— 人口密度は1㎦当たり 310人 —

建設省国土地理院が公表している「平成元年全国都道府県市区町村別面積調」による三重県の面積は、5,774.39㎦で、これにより三重県の人口密度を算出すると、1㎦当たり 310人となる。

これを昭和60年国勢調査時の人口密度 302人と比較すると、8人の増加であり、また、大正9年の第1回国勢調査時の人口密度が 188人であったので、この70年間に 1.6倍過密になったことになる。(表1)

表1 人口密度

年 次	人口密度 (人/㎦)
大正9年	188
昭和60年	302
平成2年	310

### 3. 人口の推移

— この5年間に 2.6%増加 —

昭和60年国勢調査時の人口と比較すると、この5年間に45,203人、率にして 2.6%増加している。また、大正9年の第1回国勢調査時の人口が1,069,270人であったことから、この70年間に約 1.7倍になったことになる。

この間の国勢調査での推移をみると、昭和30年から35年にかけて若干減少したのを除くと、調査のたびごとに増加を示している。

戦後は、昭和22年に、海外からの引き揚げや復員による帰国とそれに伴うベビーブームにより18.2%の大きな増加をみたが、昭和22年～25年は 3.2%、ベビーブームが去った昭和25年～30年は 1.7%と増加率が小さくなり、昭和30年～35年には、0.0% (528人) ではあるが、わずかに減少した。しかし、昭和35年～40年には 2.0%増と再び人口増加に転じ、昭和40年～45年には 1.9%増、昭和45年～50年には第2次ベビーブームの影響もあり 5.4%と増加率は大きく上昇した。しかし、昭和50年～55年には 3.7%増と増加率が低下し、昭和55年～60年も 3.6%増、さらに昭和60年～平成2年は 2.6%増で、増加率は鈍化傾向を示している。(表2)

表2 国勢調査による人口の推移

年 次	人 口 (人)	前 回 対 比		年 次	人 口 (人)	前 回 対 比	
		増減数 (人)	増減率 (%)			増減数 (人)	増減率 (%)
大正9年	1,069,270	—	—	35年	1,485,054	— 528	— 0.0
14年	1,107,692	38,422	3.6	40年	1,514,467	29,413	2.0
昭和5年	1,157,407	49,715	4.5	45年	1,543,083	28,616	1.9
10年	1,174,595	17,188	1.5	50年	1,626,002	82,919	5.4
15年	1,198,783	24,188	2.1	55年	1,686,936	60,934	3.7
22年	1,416,494	217,711	18.1	60年	1,747,311	60,375	3.6
25年	1,461,197	44,703	3.2	平成2年	1,792,514	45,203	2.6
30年	1,485,582	24,385	1.7				

— 自然増加率、社会増加率ともに低下 —

人口動態統計（三重県月別人口調査）によると、三重県の昭和60年～平成2年の自然増加数（出生数から死亡数を差し引いた数）は、29,159人で（「外国人」及び「届出遅れ」を含まない。）率にして、1.7%であった。

自然増加率は、第2次ベビーブームを含む昭和45年～50年には5.0%と高率を示していたが、その後は、昭和50年～55年の3.5%、昭和55年～60年の2.4%と低下を続け、昭和60年～平成2年においても1.7%とさらに低下しており、出生数、死亡数ともに少ない「少産少死」傾向は、依然として続いている。

一方、昭和60年～平成2年の5年間の人口増加数（45,203人）から自然増加数（29,159人）を差し引いて求めた社会増加数は16,044人で、率にして0.9%であった。

三重県の社会増減は、昭和25年～45年の各5年間はいずれも社会減少であったが、昭和45年～50年には0.4%の社会増加に転じ、昭和55年～60年には1%を超える増加率を示した。昭和60年～平成2年はわずかに低下し、0.9%の社会増加率を示した。

昭和60年～平成2年の人口増加率は鈍化傾向を示しているが、これは自然増加率の低下に主な原因があるとみられる。（表3）

表3 人口の自然増加及び社会増減（昭和25年～平成2年）

年次	自然増加	社会増減	純増減	自然増加率	社会増減率	純増減率
昭和25年～30年	80,796人	-56,411人	24,385人	5.5%	-3.9%	1.7%
30年～35年	59,250	-59,778	-528	4.0	-4.0	-0.0
35年～40年	64,128	-34,715	29,413	4.3	-2.3	2.0
40年～45年	63,346	-34,730	28,616	4.2	-2.3	1.9
45年～50年	76,818	6,101	82,919	5.0	0.4	5.4
50年～55年	57,004	3,930	60,934	3.5	0.2	3.7
55年～60年	41,199	19,176	60,375	2.4	1.1	3.6
60年～平成2年	29,159	16,044	45,203	1.7	0.9	2.6

4. 男女別人口

— 性は94.2 —

三重県の男女別人口は、男869,515人、女922,999人で、女が男より53,484人多く、性比（女100人に対する男の数で、男女の構成比をみる指数）は、昭和60年国勢調査時と同じく94.2であった。

男女別人口の推移を昭和60年国勢調査時と比較すると、男は22,095人（2.6%）、女は23,108人（2.6%）の増加となっており、男女とも同率の増加を示している。（表4）

5. 市・郡別人口

— 市部に三重県人口の約7割が集中 —

三重県の人口を市・郡別にみると、市部1,210,901人、郡部581,613人で、三重県人口に占める割合は、市部67.6%、郡部32.4%となっている。

昭和60年国勢調査時と比較すると、市部人口3.4%、郡部人口0.9%の増加を示しているが、増加率は市部人口の方が高く、その結果、市部人口の割合が0.6ポイント上昇した。

なお、人口密度は、1km<sup>2</sup>当たり市部604人、郡部154人で、市部と郡部の間には3.9倍の大きな差がある。また、性比は市部95.1、郡部92.4である。（表5）

表4 男女別人口及び性比  
（昭和60年、平成2年）

年次	男	女	性比
昭和60年	847,420人	899,891人	94.2
平成2年	869,515	922,999	94.2

表5 市・郡別人口（昭和60年、平成2年）

年次	人口（人）		県人口に占める割合（%）	
	市部	郡部	市部	郡部
昭和60年	1,170,856	576,455	67.0	33.0
平成2年	1,210,901	581,613	67.6	32.4